

平成22年 3月19日現在

研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2006 ～ 2009
 課題番号： 18500489
 研究課題名（和文） 総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの確保と活用
 研究課題名（英文） Collecting and Utilizing Volunteer in comprehensive community sports clubs.
 研究代表者
 新出 昌明（SHINDE MASAOKI）
 東海大学・体育学部・准教授
 研究者番号：70266360

研究成果の概要（和文）：

本研究は、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの参加理由・やりがい・やめたい時を調査し、ボランティアの確保、活用、継続を探ろうとした。その結果、「学習」「理念実現」「人間関係」「社会貢献」「自己活用」「交流」の参加動機因子が抽出され、2因子で役割別による違いが見られた。この結果から、ボランティアの募集、活用には各役割に応じた期待を満足する活動内容や方法を検討・開発することの重要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：

This study investigated the motivation of the volunteers and was going to search collecting and utilizing volunteer in comprehensive community sports clubs.
 As a result, a participation motive factor of the "learning" "idea realization" "human relations" "contribution to society" "self-practical use" "interchange" was extracted, and a difference to depend according to a role in two factors was seen. The importance of developing the activity contents which satisfied the expectation that accepted each role for collecting and utilizing of the volunteer was suggested by this result.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	300,000	0	300,000
2007年度	400,000	120,000	520,000
2008年度	300,000	90,000	390,000
2009年度	300,000	90,000	390,000
年度			
総計	1,300,000	300,000	1,600,000

研究分野：スポーツ経営学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 ・ スポーツ科学

キーワード：ボランティア、地域スポーツ、クラブ、マネジメント

1. 研究開始当初の背景

2000年9月に文部省から「スポーツ振興基本計画」が告示され、そこに掲げられた目

標を達成させるべく総合型地域スポーツクラブの設立に力が注がれていた。

総合型地域スポーツクラブ設立に関しては多くの研究が行われ、その蓄積がクラブ設

立への成果として貢献してきた。しかし、「スポーツ振興基本計画」の目標は、総合型地域スポーツクラブが設立されれば達成されるのではなく、設立されたクラブを存続・維持・発展させ、成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人(50パーセント)になることある。しかしながら残念なことに、総合型地域スポーツクラブが設立された後のクラブ経営に関する研究成果はわずかしら見られない状況にあった。

総合型地域スポーツクラブの存続・維持・発展に関しては、活動のため施設、クラブ運営のための資金、運営のノウハウを必要とするが、そこにかかわる人の存在も見逃すことができない。会長はもとよりクラブマネージャーや事務局員などの運営スタッフ・理事会メンバー・実技指導者などその多くがボランティアであり、総合型地域スポーツクラブを推進させていく大きな力はボランティアとして総合型地域スポーツクラブにかかわる人の存在であることから、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアのマネジメントを対象とした研究が必要な状況にあった。

2. 研究の目的

本研究は、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの確保に向けた工夫や現状と獲得されたボランティアの活用方法の実態や課題を明らかにする。そして、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアに対するマネジメントを提案することを目的として行われた。

3. 研究の方法

総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの確保に向けた工夫や現状と獲得されたボランティアの活用方法の実態や課題を明らかにするため、ホームページ上にクラブ名と住所等が記載されている全国の総合型地域スポーツクラブから524クラブを抽出し、「クラブの概要調査」と「総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの調査」の2種類の調査を同時に実施した。調査方法は質問紙郵送法を用い、2008年2月1日～3月31日の期間に調査を行った。

「クラブの概要調査」は、クラブの置かれている環境やクラブの経営状況など、ボランティアが活動する環境を知るための調査であり、配布数は524、回収数(回収率)は196(37.4%)であった。「総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの調査」は、各クラブに4部の調査票を同封し、協力できる範囲で調査票の配布・回収をお願いした。配布数は2096部。回収数(回収率)655(31.25%)であった。

4. 研究成果

本研究の結果、以下の成果を得ることができた。

(1) 「クラブの概要調査」から得られた成果

① クラブの運営状況、財政状況

クラブの運営状況に関しては「2. ややうまくいっている」と回答したクラブが半数を超え「1. とてもうまくいっている」を加えると70%を超えており、多くのクラブで運営がうまくいっていることを表していた。また、財政状況においても、「1. とてもうまくいっている」、「2. ややうまくいっている」と回答したクラブの合計が56%に及んでおり、半数以上のクラブがうまくいっている状況にあることがわかる。クラブの運営状況、財政状況は、良好な状態であった。

② クラブの人材確保の状況

クラブの人材確保の状況に関しては、「1. とても潤っている」、「2. やや潤っている」と肯定的な回答をしているクラブが41%に満たない状況であるとともに、「4. あまり潤っていない」、「5. まったく潤っていない」と否定的な回答をしたクラブが30%を超えており、人材確保の困難さが窺われる結果となった。

③ クラブの設立による良かった点、悪かった点

クラブを設立したことによって良かった点、悪かった点を自由記述によって回答を求め、その回答をカテゴリー化して集計した。その結果を簡単にまとめると、クラブを設立することによって、さまざまな意味での「交流」には貢献しているものの、スタッフに大きな負担が生じてきているとともに、財政面での将来的な不安や活動場所の確保などに課題が残っているようであった。

(2) 「総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの調査」から得られた成果

① クラブをお手伝いしている内容

総合型地域スポーツクラブをお手伝いする人材は、さまざまな役割を担っているが、お手伝いしている内容について尋ねた結果をまとめると、理事や監事など「クラブ役員」が最も多く全体の4分の1。次いで、クラブの事務などを担当する「クラブスタッフ」がほぼ4分の1。「実技の指導者」が4分の1に少々欠ける人数であった。「クラブ代表者」や「クラブマネージャー」は全体の1割に満たない人数であった。

② ボランティアの確保について

ここでは、総合型地域スポーツクラブでお手伝いをするボランティアを集めるための方法を探るきっかけとして、現在、総合型地

域スポーツクラブでお手伝いをしているボランティアの人々にさまざまな観点から総合型地域スポーツクラブを手伝う動機を尋ねた。質問は、「5. 大変そう思う」、「4. ややそう思う」、「3. どちらともいえない」、「2. あまりそう思わない」、「1. まったくそう思わない」の5段階評定（尺度）で測定を行ったため、すべての回答は、間隔尺度を構成しているものと捉えて、各回答にそれぞれ5点～1点を与えて得点化し、平均値を求めた。

まず、総合型地域スポーツクラブにかかわりをもつにはさまざまな理由が考えられる。特に、ボランティアとしてお手伝いを始めるには、クラブやクラブ関係者への賛同や関係者からの勧誘が必要と考える。そこで、「お手伝いを始めた際の理由」として「クラブやクラブ関係者との関係」を尋ねた。

結果は、「1. このクラブを育てていきたいと思ったから」、「2. 手伝えることに意味があると思ったから」や「3. クラブの役に立てると思ったから」という利他的な理由に高い平均値がみられ、利己的な理由には低い平均値がみられた。

さらに、「きっかけ」として「個人とクラブとの関係」、「動機」として「総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めた個人的な理由」を尋ねた。

結果は、全体的に平均値が低くなっている。「14. 少々のお小遣いを稼げると思ったから」や「13. ユニフォームを着て活動したいと思ったから」といった利己的な内容には低い平均値がみられている。

「動機」の結果は、「1. 自分自身の成長になると思ったから」、「2. 視野が広がると思ったから」、「3. いろいろな人に会えると思ったから」の項目に対して4.0に近い平均値がみられるものの、4.0を超えるほどの強い動機はみられなかった。また、全体的に3.0を上回っているため肯定的と考えられるが、突出して高い値や低い値の項目はみられなかった。

③ クラブのお手伝いを続けている理由

総合型地域スポーツクラブのボランティア活動を続けている理由は、何らかの動機づけがあるに違いないと考える。そこで、「続けている理由」を尋ねてみた。つまり、将来もこのような刺激が、時々、あるいは、断続的にあれば活動を続けていけることになる。さらには、そのような刺激を実感として感じられる時として、「今後も続けていきたい時」を捉えようとした。

結果は、「1. このクラブの活動方針に共感できるから」、「2. 代表者（会長）が一生懸命に頑張っているから」、「3. 社会のためになっていると思うから」といった内容がボランティア活動の原動力となっている

ようであり、「4. 暇つぶしになっていると思うから」、「5. 小遣い稼ぎになっていると思うから」といった自分の内部にもっていて、クラブを自分のために利用しようとする理由は平均値が低い傾向にあった。

それでは、「今後も継続してこの活動を実施していきたい」と積極的に考える場面、考えさせられる時とは、どのような時なのだろうか。「今後も続けていきたいと思うとき」を尋ねてみた。

その結果、ボランティアの人たちはクラブのメンバーがよく動いていることや育っていることに「励み」を感じて今後もこの活動を続けていこうという意欲が生まれてくるように考えられた。

④ お礼のお金や交通費とボランティア活動認識

まず、お礼のお金や交通費をもらっているかどうかの傾向だけをみることにした。

結果は、「お礼のお金をもらっている」との回答が約3割であるのに対し、「交通費をもらっている」との回答は、1割にも満たない結果であった。

さらに、クラブでお手伝いしている活動を「ボランティア活動」だと思うかを尋ねたが、その結果は、約7割の人が「1. 『ボランティア活動』だと思う」と回答し、ボランティア活動であることの認識をもっていた。

⑤ 報酬への考え

ボランティア活動の原動力は必ずしも金銭的報酬ではないことは当然のことである。しかしながら、各人の「ボランティア」感（観）も相当に異なっているように思う。そこで、ボランティアの人達は、「交通費」や「お礼」、「お弁当」といったボランティアへの報酬に対して、どのように考えているのかを尋ねた。

まず、交通費については、「3. 交通費といえども金銭はもらうべきでない。」とした設問に対する平均値は2.3と3.0の中心値を下回っており、他の回答からも、「どちらかというとならば交通費であるならばもらっても良いのではないかと考える人が多いように思う。

次いで、お礼に関しての結果であるが、ここで設定した8問に対してすべての平均値が3.0を下回っており、お礼に関しては「もらうべきではない」と考える人が多いのではないかと推測される結果であった。しかし一方で、「2. お礼といえども一切の金品はもらうべきでない。」という設問に対しても2.42と3.0を下回った平均値を示しており、これまでの結果に対してやや矛盾した結果も見られている。

続いて「お弁当」に関してであるが、本来であれば「ボランティア」であるから、手弁当で参加する、というのが本来の姿と捉えて

いるが、どのように考えるのであろうか。

特に、ここでは「お昼をはさんだ活動」という設定でお弁当の支給に対してどのように考えるのかを尋ねた。

その結果、最も高い平均値を示したものは、「1. お昼をはさんだ活動に、お弁当を出して欲しい。」とお弁当の支給を要望しているようにもあり、一方で、「2. お弁当は報酬（お礼）のうちに入ると思う。」とお弁当の支給を否定している状況もみられる。しかし、「5. お弁当が出ないなら、昼食代を支給して欲しい。」の平均値はやや低い数字がみられるものの全体的には各設問の平均値が3.0を中心として大きな開きのない状態がみられている。

⑥ 総合的満足度

総合型地域スポーツクラブをお手伝いしていることの総合的な満足度は、どうなんだろう。「5. 大変に満足している」、「4. やや満足している」、「3. どちらともいえない」、「2. あまり満足していない」、「1. まったく満足していない」といった5段階の評定尺度によって回答してもらった。

その結果は、「4. やや満足している」と回答した人が半数を超えており、「5. 大変に満足している」の19.4%を加えると、約7割の人たちが満足している状態にあった。なお、これらを得点化した際の平均値は3.85であった。

⑦ ボランティア参加動機因子の抽出

「②ボランティアの確保について」で示した、「総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めた理由」、「総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めたきっかけ」、「総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めた動機」は、調べる内容に対する次元（観点）が異なる調査項目であるが、上位項目としては、いずれも、「ボランティアの参加動機」を探ろうとする項目の集まりと捉えることができる。

そこで、「総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めた理由」（クラブやクラブ関係者との関係）10項目、「総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めたきっかけ」（個人とクラブとの関係）14項目、「総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めた動機」（総合型地域スポーツクラブのお手伝いを始めた個人的な理由）21項目の合計45項目を「総合型地域スポーツクラブのボランティア参加動機項目」として1つに括り、因子分析を用いることで「ボランティア参加動機因子」の抽出を試みることにした。

総合型地域スポーツクラブのボランティアの参加動機に対する因子分析の結果、「学習」「理念実現」「人間関係」「社会貢献」「自己活用」「交流」の6因子が抽出された。

⑧ クラブ内の役割

クラブ内の役割について、「①クラブをお手伝いしている内容」を基に、クラブ代表者とクラブの役員をまとめて「1. 代表者・役員」というクラブの経営・会議を担当する役割、クラブマネジャーとクラブスタッフをまとめて「2. マネジャー等」といったクラブの事務を担当する役割、実技の指導とイベントのお手伝い他をまとめて「3. 実技指導他」といった実践現場で活動を行う役割と捉えて、3つの役割からなる「クラブ内の役割」を作成した。

⑨ クラブ内の役割による平均値の差

「ボランティア参加動機因子」をクラブ内の役割で比較した結果、「学習」因子と「自己活用」因子において0.1%水準で有意な差が見られた。因子分析によって精選された6つのボランティア参加動機因子の中で2つのボランティア参加動機因子においてクラブ内の役割による違いが明らかになった。

具体的には、第1因子の「学習」において、「1. 代表者・役員」の平均値よりも「2. マネジャー等」、「3. 実技指導他」の平均値が高いため、クラブマネジャーなどの事務スタッフやクラブの実践現場で実技の指導等を担当する指導者やイベントのお手伝いをする人達は、クラブの代表者や役員よりも、クラブでお手伝いすることが、自分の学習になるのではないかという期待を抱いているということになる。また、第5因子の「自己活用」では、「1. 代表者・役員」及び「2. マネジャー等」の平均値よりも「3. 実技指導他」の平均値が有意に高いため、クラブ代表や役員及び事務スタッフなどの人達よりも実技を担当する指導者やイベントのお手伝いをする人達の方が、自分のもっている経験や知識・技術を活かせるのではないかと考えて、総合型地域スポーツクラブのボランティア活動に参加したものと考えられる。

本研究の成果により、総合型地域スポーツクラブを手伝うボランティアの募集において、また、ボランティアの活用においても各役割に応じた期待を満足する活動の内容や方法を検討・開発することの重要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1件）

- ① 新出昌明、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの役割と実態、体育経営管理学論集、査読有、第二巻、2010、45-53

〔学会発表〕(計 2件)

- ① 新出昌明、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの役割と活動への動機、日本体育学会第60回大会、2009年8月28日、広島大学(広島県)
- ② 新出昌明、総合型地域スポーツクラブにおけるボランティアの役割と実態、日本スポーツボランティア学会第6回大会、2009年12月23日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新出 昌明 (SHINDE MASA AKI)
東海大学・体育学部・准教授
研究者番号：70266360

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし